

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION



同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

160

2009
October

特集

社会人学生の
学び

●同志社人訪問

マイクロファイナンス・

インターナショナル・

コーポレーション社長

枋迫篤昌さん
に聞く



『ONE PURPOSE』は在学生・卒業生の皆さんとのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。
ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

大学の活動



特集

社会人学生の学び----- 2 ～それぞれの道、それぞれの明日～

留学生の眼 ----- 9

同志社の研究は今 ----- 11

次世代の科学技術を担うナノサイエンスの研究推進拠点
ナノサイエンス研究センター 水谷 義 理工学部教授

2008年度 大学決算 ----- 13

CAMPUS NEWS ----- 15

「イェール・同志社 交流会」を開催／グローバル・スタディーズ研究科開設記念公開講演会／政策学部
生、京田辺市の商店街活性化に取り組む／オープンキャンパス2009開催／薬物乱用防止公式ポスター
デザイン表彰式／留学生が祇園祭に参加／新任教員・退職教員／2009年度卒業式・学位授与式／2010
年度入学式／本学教員の執筆図書の紹介／卒業生の新刊図書

在学生・教員の活動

OP COMMENTARY ----- 19

ダーウィンとゴアと私たち―観察眼と洞察力と地球環境― 西納 春雄 言語文化教育研究センター准教授

MY PURPOSE ----- 27

国際ソロプチミストアメリカ連盟(SIA)の学生援護賞1位受賞～障がいを持つ社会人学生として～
林 成道さん(総合政策科学研究科 博士課程(前期課程) 2年次)

卒業生の活動



INTERVIEW ～同志社人訪問～ ----- 20

マイクロファイナンス・インターナショナル・コーポレーション社長
枋迫 篤昌さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ～シリーズ 私と「仕事」～ ----- 23

・鎌田 均さん(1994年文学部文化学科文化史学専攻卒業)
・福原 澄恵さん(1998年神学部卒業、2000年神学研究科博士課程(前期課程)組織神学専攻修了)

ANNOUNCEMENT ----- 25



表紙の情景 [アーモスト館ラウンジ]

重要文化財と登録有形文化財が建ち並ぶ今出川キャンパス。
アーモスト館は登録有形文化財の1つで、同志社の創立者である
新島襄の母校アメリカ・アーモスト大学の関係者らの寄附によっ
て1932年に竣工した。ヴォーリズ建築事務所が設計したニューイ
ングランド・ジョージアン様式の美しい建物である。2009年春に
は改修工事が終了し、耐震化や内部の改装を施す一方、屋根を創
建時の天然スレート葺に戻すなど当時の様子を極力残している。
長く学生寮として利用していたが、今後は海外からの客員研究員
をお迎えするなど、国際交流の場として教育研究に活用していく。

社会人学生の学び

それぞれの道、それぞれの明日

近年、キャンパスに社会人学生が増えてきたと感じませんか。

ひと口に社会人学生と言っても、職業と両立させながら通学している人、仕事を辞めて再び学びはじめた人、

いったん家庭に入った後や定年退職した後に大学(院)に入学する人など、そのありようはさまざま。

社会人を経験して、あるいは経験しつつ学ぼうとする人たちには、明確な目的や学修への高い意識が感じられます。

また、一度社会に出ているからこそ、学ぶ意義や研究対象への理解が深まるとも言えるでしょう。

社会人学生は何のために大学で学び、何を得ようとしているのか。

多様な背景を持つ社会人学生にインタビューし、それぞれの学びへの思いをたずねました。

同志社で踏み出した
第2の人生

● 嵐護さん



神学研究科博士課程（前期課程）2年

らめていた。そんな中、同志社大学の神学研究科が社会人入試をしていると知ったのです。いい時代になりましたね。昔だったらこんな社会人入試などなかったでしょうから、入学できなかったかもしれません。

「ご家族の反応は
いかがでしたか？」

家内は私が言い出したらきかないと知っていますし、経済的には一応安定していますので、30数年働いたのだから自分の好きなことをすればいいだろうと。独立している3人の子どもたちも、いい機会だから京都で自立する生活をしてきたらいいと、喜んで送り出してくれました。2年間の学費、生活費はこれまでの蓄えで賄う計画で入学しました。京都では一般学生と同じように学生マンションで1人暮らし。現役の大学時代は寮生活でしたから、まったく1人で自炊をするような生活は生まれて初めてです。

入試対策はどうされましたか。

英文を読んでそれについて論ずる問題がありましたから、まず錆びびっている英語を何とかしないとイケない。2年の準備期間で

『星の王子様』から始め、『ジェーン・エア』『グリーン・マイル』それから聖書で英語を勉強しました。対訳ですが創世記からヨハネ黙示録まで熟読しましたね。

学生生活はいかがですか。

とても充実しています。学問はやはり本から読むよりも直接声に触れて刺激を受けてこそ身に付くものです。独学で本だけで勉強するのは難しいとつくづく感じました。先生方も講義ももったいないくらい素晴らしいです。それに図書も充実していますから、授業のない空き時間はほとんど図書館で過ごしています。住まいがすぐ近くなので帰って洗濯をしたりしますが、高知の実家に帰るのは各学期の休みだけです。2年間と限っているからできるのでしようね笑。

一般学生との違いを
感じることはありますか。

社会人学生が結構多くて、今年入学した人の中には私と同様、定年退職して来られた方もいます。私より年上の方もいらつやいますし、むしろ若い人たちが気を使ってくれている感じですね。京都教会にも若い学生が在籍し

なぜ大学院に行こうと
考えられたのですか。

昨年3月に定年退職する2年半前のことです。東北大学法学部の学生時代に初めてキリスト教に接し、以来、教会生活を30数年



【PROFILE】

大学卒業後、高知県庁へ。総務部や病院局、企業局を経て、2008年3月に定年退職。62歳。

ていて同じ活動をしていますから、特に違和感はありません。ただ、社会人を経験していることで、自分の引き出しが多くなっているとは思いますが。いろいろな場面にに応じて引き出しを引っ張り出しながら対応できるのは、やはり社会人生活を送った経験があるからでしょうね。

修了後の予定は？

牧師になることです。聖書の勉強をしたいという気持ちからさらに、勉強したことを自分の頭だけにとどめておくのではなく、聖書が教えていることを教会の活動に参画して

伝えていきたいと願っています。来年3月に牧師の試験を受ける予定で、合格すれば教会に赴任することになるでしょう。

同志社の教育について

思うことは？

やはり自由ですね。新島襄の精神やその自由を一番良い形で引き継いでいるのが神学部ではないかと思っています。自由な中で学問をしていくということは、神学部神学研究科が一番大事にしていることだと思いますし、他の大学にはないところではないでしょうか。

その選択は学びの可能性を拓いた

大学入学までの経緯を 教えてください。

高校を卒業してからいろいろな仕事をし、結婚と出産を経て、エアロビクスのインストラクターを始めました。スポーツクラブでプログラム開発などを担当するようになり、現在はインストラクターを育成する教育団体に所属しています。本当は20数年前に高校を出て大学に入っていたはずですが、私の場合は高校を出て大学に入るまで20数年必要だったということですね。

大学に入学した理由は？

ここ数年、フィットネス業界は科学的根拠に基づいてどのような成果が出るかというこ



●相原 和子さん スポーツ健康科学部2年



【PROFILE】
愛知県豊橋市在住。スポーツインストラクターで、2人の大学生の母。PFAピラティスジャパンマスターコーチ、愛知大学オープンカレッジ講師を務める。43歳。

とより、海外で人気があるプログラムかどうかという点が重視される傾向にあります。流行に乗って科学的根拠のないものを指導するという状況の中で、自分が消耗していくのを感じていました。社会人としても会社組織の一員としても、もう少ししっかりしたもの伝えていかなくてはいけないのではないかと、思うようになったのです。恩師に「君たちの仕事は科学に基づいていないと未来がない」と言われたこともあり、大学で科学的に勉強する以外に進むべき道はないと考え、大学受験を決めました。

「ご家族に反対はありましたか。」

子どもたちはすでに大学生ですし、実は、娘、私、息子の順で受験をしたものだから、

大変なのは夫だけでした(笑)。でも、一番応援してくれたのも夫でした。同志社のような自分のやりたいことに力を貸してくれる大学に行くことには大きな意味があると、後押しをしてくれたのです。

**豊橋から京都へ、
通学が大変でしょう。**

新幹線で毎日、片道約3時間。朝6時少し前の電車に乗ると、1限目に間に合います。3、4限までしか受けられないのですが、そこから帰宅して、日によっては自宅や名古屋で仕事をします。精神的には大丈夫ですが、最初は体力的にきつかったですね。今ではもう慣れましたけれど。

**近い名古屋の大学ではなく、
どうして同志社へ？**

名古屋の大学はまったく考えませんでした。いろいろなところから切磋琢磨した人たちが集まっている大学に行きたいと思っていたのです。勉強でもスポーツでも、同志社に來ている人たちはみんな切磋琢磨して入ってきています。すごく多様性があり、その中で刺激を受けながら学びたいと思いました。それに、やはり創立者の新島襄先生の良心に基づくとこの教育に魅かれたというのがありますね。

**40歳を過ぎての大学入学、
周りの人の反応は？**

私の場合、社会人入試ではなくAO入試で一般学生と同じように受験をしましたから、そういう選択もできるのだと感心してくださる方もいます。高校を卒業してすぐ仕事をするとこの選択をしてきた人たちにとっては、希望が見えたと言いますか、ある程度仕事が決まっていたときに自分もそういう選択をしてみようという人が、特に男性に多いですね。いろいろ回り道をしましたが、私の選択が本当に学びたい人たちのきっかけになるのかなと思います。

**そんな相原さんから見て、今の
若い学生たちをどう思いますか。**

一緒に学んでいて非常に尊敬に値すると思っています。私が受験をするのと子どもた

ちが受験をするのでは、質が違います。私の立場での大学とのつき合い方と、彼らが大学から学ぶことは違うと思うのです。彼らは人生の礎を作っているのですが、私の場合大学で自分が作ってきたものに足りないところを補い、新たな発想を加えているのです。同じ課題に取り組みにしても、私は体力的、時間的な制約がありますから、取捨選択しないといけない。それは自分のやるべきことが決まっているからであり、一方彼らは自分のやりたいことをこれから見つけていくわけですから。学ぶということはその人たちの潜在的な力を引き出すということですし、学びを深めることは本当は自由になるということなのだと思います。

ビジネススキルを身につけて 将来は経営の道へ

●山手 和幸さん

ビジネス研究科専門職学位課程1年

なぜビジネススクールへ
行こうと思ったのですか。

現在の仕事は、製薬会社で薬の学術的知識を営業スタッフに教えたり、学会などの場で薬をプロモーションしていく業務が中心で



す。1992年に岡山大学薬学研究科を修了後、今の会社に入社してからずっと技術畑です。自分で足りないのは経営や人事面のスキルだと感じていました。本当の意味でのビジネススキルを身につけるためには、MBA（経営学修士）の取得が必要だと考えたのです。

同志社大学を選んだ理由は？

いくつかのビジネススクールを見て回ったのですが、ケーススタディでビジネススキルを教えているところは、経済や経営を学んだ基礎がある人にはいいのですが、私のような理系出身者は基礎から学問として積み上げていく必要があります。ですから、カリキュラムにも基礎から応用の流れがきちんと組み込まれたところでないといけません。同志社は調べてみると、国内企業の経営トップを多く輩出していますし、人脈のネットワークがしっかりしている。カリキュラムについても、基礎から積み上げていくスタイルなので選びました。また、会社が京都市内にあり、会社員としての生活を続けながら無理なく通えるところへ、というのも大きな理由でした。



【PROFILE】

岡山大学大学院薬学研究科修了後、製薬会社に入社。創薬研究所、臨床開発部門を経て、現在は学術部門の管理職。41歳。

毎日の生活は大変ではないですか。

授業は週3日なのですが、かなりハードです。平日は18時25分から2コマなので、終わるのは21時半過ぎ。授業以外にも、それぞれの科目で課題が与えられますので、毎週レポートを提出しないといけない。土曜日にはグループワークを中心にした授業が入っていますし、場合によっては、発表に向けてみんな徹夜をして内容を詰めていくという作業になります。ハードスケジュールで大変ですが、達成感があります。それに、大学の授業に間に合うように仕事を切り上げなければいけないので、その分仕事を効率的に進めるようになります。以前だと時間がかかっていたものが短時間でこなせるようになりました。これもビジネススクールで学んでいる効果だと思うのですが、押さえるべきポイントをきっちり押さえていけるようになったということですね。

会社からのバックアップはあるのでしょうか。

45歳くらいまでのミドル層の底上げをして将来の経営に携わる人材をつくっていくという会社の取り組みで、「次世代リーダー育成プログラム」というのがあります。私はその試験を受けて、1期生に選ばれました。そのプログラムを受講してビジネスの面白さに気づき、MBA取得を志しました。会社の教育システム上はMBAの取得は含まれていなかったのですが、私と共に教育プログラムを受けた仲間の声によって今年から会社の中でもMBAを取得させるシステムがスタート

し、そのための支援も開始されました。

修了後は？

ゆくゆくは経営に関わっていければ、と思っています。これまで製薬業界は規制に守られてある程度の収益を上げてこられたのですが、これからは多くの会社が存続をかけた厳しい競争の時代を迎えます。この難局にいかに対応していくか。あるいはまったくビジネスモデルを変えてしまふようなことも必要かもしれません。より強い危機感を持って経営に携わり、若い人にもより大きな夢を与えられる会社になりたいというのが希望です。

同志社大学で学んだ印象は？

同志社にはみんなで協力して盛り上げていく雰囲気がありますね。教員あるいは学生同士がフランクにディスカッションできる環境があり、人と人が垣根なく話ができる校風から、強い絆と一体感が生まれているのではないかと思います。また、他大学との交流も多くあり、いつも新たな刺激と発見があります。誰も脱落しないようみんなでMBAホルダーになれる日を夢見て頑張っています。





社会人入学だからこそ 得られた宝物がある

● 高畑 光公子さん 文学部国文学科4年

一度就職してから
大学に入学した理由は？

まず手に職をつけるために、子どもが好きだったということから、短大で保育士の資格を取り、保育園に勤めたのですが、大学で学びたいという気持ちはずっと持っていました。教職

同志社大学を
選んだのはなぜですか。

と図書館司書の資格を取ることともうひとつ、実は私は絵本を書くのが好きで表現力を身につけたいというのも理由でした。本当は仕事を続けながら勉強したかったのですが、仕事が遅くなると授業に間に合いません。教職科目の中で土曜日に出席しないといけない授業があったのですが、保育園は土曜日にも休めませんので、悩んだ結果仕事は断念しました。

大学生活で得たものは？

が同志社はすごく整っていると感じたのです。いろいろなことにチャレンジしたいと思っていましたから、図書館など大学内の設備やシステムなど環境が充実していたことが大きな決め手となりました。

学びの成果は？

同じ授業料を払って同じ時間を過ごすのなら少しでも多くのものを身につけたいと

知識の習得はもちろんですが、私にとってはたくさんの人との出会いが宝物です。それまでの自分は短大から保育園と小さい世界にいましたが、大学での出会いは人生観を変えるくらい刺激を与えてくれます。また、高校を出てすぐ入学しても身につけられることは多いと思いますが、私のように社会人としての葛藤があつてやっぱり大学で学びたいと思った気持ちと、18歳のときの自分の気持ちを比べると、頑張ろうという思いいろいろな講義を受けて自分のものにしようという意気込みはまったく違うと思います。学費も親に出してもらうのと、自分で貯めた貯金や奨学金でやりくりするのでは、1時間を大事にしようという気持ちがあつたと思うのです。この4年間はすべて視野が広がったし考え方も変わった貴重な時間でした。保育士をやめたことは後悔していませんが、仕事を離れたことで見えてきたこともあり、戻りたいという気持ちも出てきたので、卒業後はもう一度保育士に復帰することも考えています。保育士と教職課程では対象の年齢層は違いますが、成長段階にある子どもたちに接するという意味では共通することが多く、実際に高校の教育実習に行つて子どもの成長の流れというものを大きな枠で見ることができました。成長段階に合った子どもへの接し方など、もう一度保育士の職に就いたときにとても役に立つ貴重な体験ができたと思います。

今の大学生に感じることは
ありますか。

同志社の学生はみんな自分の意見をしっかり持っていることに驚きました。いろいろな発想が湧き出てきて、私自身たくさんパワーをもらいました。私の経験で言うと、4年間で一番過ごした時間が長かったのは図書館でした。興味を持ったことを調べようと思つたらどこまでも掘り下げられる素晴らしい場所なので、学生のみなさんにはぜひ活用して欲しいと思います。



【PROFILE】
京都市内の短大を卒業して保育士に。2年間勤務した後、2006年4月、社会人入試で文学部国文学科に入学。25歳。

佐野さんは他の人と違い、大学生のときに起業したのですね。

はい同志社大学経済学部3年のときに、介助が必要な障がい者の方やお年寄りに、旅行や日常のちょっとしたお出かけが気軽にできるようサポートする事業を立ち上げ、昨年2月、正式に株式会社になりました。ポランティアやNPO(非営利活動法人)ではなくひとつの事業として展開したのは、きちんとしたビジネスモデルにすることで、社会にその意義や必要性をより広げていこうと考えたからです。

大学院進学は社会を変えていく手段

● 佐野 恵一さん 総合政策科学研究科 博士課程(前期課程)2年

学部を卒業後、事業に専念しないで大学院に進んだのはなぜですか？

行政など制度的な面の不備を変えていくには、実践面に加え理論的な裏づけが必要だと

思ったからです。企業として結果を出しながらもう一方で理論があれば説得力が増しますし、政策提言することも可能になります。制度を変えていく手段として大学院進学があったのです。

公共政策コースではなくソーシャル・イノベーション研究コースを選んだのは？

介護保険制度でも要介護者の余暇の部分にはエアポケットになっています。それを変えていくためには理論と実践の両方が必要です。

度的にどこに問題があるのかということ、やはり大学院の勉強の中で学びました。考え方の広がりもできました。これまでは我流でやってきたところがありますから、学問だけでは現実とは違うということになりがちですが、現実で壁にぶちあたると、それを超えるのに理論が必要になります。逆に実践によって理論の矛盾点を越えていくこともあります。その意味で学ぶことはすぐ役に立っています。ビジネスには常に利益を出さなくてはならないという厳しさがありますが、学問にはまた別の価値観があり、大学院で学ぶことでうまくバランスが取れています。勉強すればするほど自分の青さ加減もよくわかりますしね(笑)。

大学院で学ぶことは、事業でも役に立っていますか。

背景にどうしてこんな問題があるのか、制

他の学生との交流は？

社会人学生は、バックグラウンドがそれぞれ

違いますから、お互いの交流はとても有意義です。学部から進学してくる人も、単に学問の延長として学んでいるのではなく、何か具体的な問題意識を持っている人が多い。社会人である学してくる人は、どんな職業の方でもより強い問題意識を持っています。自分よりずっと年上の人たちと触れあうのは刺激的ですね。教科書と先生の一方的な講義ではなく、さまざまな問題があつて社会があつて大学院がある、その繋がりの中で学ぶことに大きな意味があると思うのです。



【PROFILE】

経済学部2年次に第2回同志社大学ビジネスプランコンテストで最優秀賞を受賞。そのプランを実現して「旅のお手伝い楽楽」を起業。25歳。



さまざまな人との 出会いの中で見つけたもの



教学旅行では、革命の聖地・井岡山へ

復旦大学は名実共に中国のトップ3に入る大学で、学生の質はとても高く、彼らの勉強時間の多さに驚かされました。自然と勉強時間は増え、中国語の能力も気づかぬうちに随分伸びていました。勉強以外にも、サークル活動、日中友好団体や日韓中学生交流会にスタッフとして参加したり、留学生バレーボールチームに所属して大学の大会で優勝したりと充実した生活を送っていました。そして一年という時間はあっという間に過ぎていきました。限られた時間をどう使うか、それは個人の選択であり、かつ重要な選択であると思います。



留学生バレーボール部の仲間たちと

復旦大学には社会人の方もたくさん留学されています。そのような方と日々勉強を共にし、交流する中で、自分の未来像というものをしっかりと認識していくことができた気がします。お話の中で一番印象に残っているのは「社会に出たら理不尽なことだらけだ」という一言。社会に出るということはそう甘くないのだと認識させられました。

中国の発展を象徴する上海の街は、建設ラッシュと2010年開催予定の万博に沸いていました。人々の生活も日々豊かになっていくと伝わってくるような活気があります。しかし一方では物乞いが目立ち、金融危機の煽りで失業者が溢れています。また環境問題、公共・企業管理、福祉といった面でまだまだ未熟であり、発展途上であるということを感じました。

授業や課外活動以外に、週末や長期休暇を利用してさまざまなところに旅行に出かけました。上海から時には汽車のシートに10時間以上揺られ、時にはバスの寝台で夜を越し、時にはぼつたりタクシーと交渉をし、時には文明の利器に頼るといった感じで中国各地を巡り歩きました。福建省、広東省では沿海都市の発展ぶりを目にし、河南省、河北省、安徽省では人々の生活の質しさを目の当りにし、雲南省、広西省では少数民族の暮らしにも資本主義の波が押し寄せているのを知り、新疆ウイグル自治区では漢民族と相容れない少数民族の不安定な動きを感じるなど、多くの人々と出会い、いろいろな生き方を知ることができました。

本当にこの一年間でさまざまな人に出会えたと思います。今までの自分は本当に狭い世界に住んでいたのだと気づき、世界の広さを知りました。このような出会いがきっと今後の自分の財産になるだろうと信じています。二期一会を大切に、とにかく人と出会い言葉を交わせば、自分にとって何か得られるはずだと思うようになりました。

授業や課外活動以外に、週末や長期休暇を利用してさまざまなところに旅行に出かけました。上海から時には汽車のシートに10時間以上揺られ、時にはバスの寝台で夜を越し、時にはぼつたりタクシーと交渉をし、時には文明の利器に頼るといった感じで中国各地を巡り歩きました。福建省、広東省では沿海都市の発展ぶりを目にし、河南省、河北省、安徽省では人々の生活の質しさを目の当りにし、雲南省、広西省では少数民族の暮らしにも資本主義の波が押し寄せているのを知り、新疆ウイグル自治区では漢民族と相容れない少数民族の不安定な動きを感じるなど、多くの人々と出会い、いろいろな生き方を知ることができました。

授業や課外活動以外に、週末や長期休暇を利用してさまざまなところに旅行に出かけました。上海から時には汽車のシートに10時間以上揺られ、時にはバスの寝台で夜を越し、時にはぼつたりタクシーと交渉をし、時には文明の利器に頼るといった感じで中国各地を巡り歩きました。福建省、広東省では沿海都市の発展ぶりを目にし、河南省、河北省、安徽省では人々の生活の質しさを目の当りにし、雲南省、広西省では少数民族の暮らしにも資本主義の波が押し寄せているのを知り、新疆ウイグル自治区では漢民族と相容れない少数民族の不安定な動きを感じるなど、多くの人々と出会い、いろいろな生き方を知ることができました。

授業や課外活動以外に、週末や長期休暇を利用してさまざまなところに旅行に出かけました。上海から時には汽車のシートに10時間以上揺られ、時にはバスの寝台で夜を越し、時にはぼつたりタクシーと交渉をし、時には文明の利器に頼るといった感じで中国各地を巡り歩きました。福建省、広東省では沿海都市の発展ぶりを目にし、河南省、河北省、安徽省では人々の生活の質しさを目の当りにし、雲南省、広西省では少数民族の暮らしにも資本主義の波が押し寄せているのを知り、新疆ウイグル自治区では漢民族と相容れない少数民族の不安定な動きを感じるなど、多くの人々と出会い、いろいろな生き方を知ることができました。



雲南省・サンパンナの少数民族の家を訪ねて



旅行では万里の長城にも出かけました(写真右が伊木さん)

法学部政治学科4年次生
伊木昌寛さん
(2008年9月～2009年7月)
中国・復旦大学へ派遣留学

挑戦の連続、 一歩踏み出す勇気を出して



ゼミで東証に見学に行きました

国語の原文の資料にあたる必要も多々あり、発表の前日は徹夜ということもしばしばありました。同志社大学商学部で学んだ会計の知識が役に立つこともあれば、それまでに学んでいなかった経済的な数式が出できたりと、大変なこともたくさんありましたが、学生同士お互いに切磋琢磨しながら学ぶ楽しさを得ました。また偶然にも同郷であった担当教授や1年間ゼミで勉強に励んだ友との出会いは、私の人生においてもかけがえのない財産となりました。

大隈塾というのは、ゲスト講師として招かれた各界の著名人のお話を聞く中で自分の将来像を考えるという授業でした。日本

の将来を背負っていくのは自分たちだ、何とか日本をより良くしたいという危機感と当事者意識を持って毎回授業に望み、熱い討論を重ねる早稲田の学生からとて

私に取組みました。

政治経済学部では、国際経済学を学ぶ員廣ゼミに所属しました。研究内容は、労働分配率などの指標を用いてそれを国際間比較し、現在の日本経済とその展望を描くというものでした。私は米国担当で、サブプライムローン問題についてのBISレポートを読み解き、自分なりに解釈していきました。研究では国際間比較のために英語や中



インターンシップにも参加

も良い刺激を受け、1年間授業が楽しかったです。とくに心に残っているのは、田原総一朗氏の「日本はもって自信を持つ

課外活動面では、以前から挑戦したいと思っていたフラダンスのサークルに飛び込みました。3年次生ながら新入生という微妙な位置付けに最初はとまどいもありましたが、週2回の練習を重ねるうち、学年を問わず仲良くなれました。その集大成として出演した早稲田祭やナレオパーティ（年に一度のフラダンス発表会）は感動的で非常に思い出深いものとなっています。

留学当初は、友人や知人が大学にいないことや、慣れない土地での一人暮らし、標準語へのとまどいなど不安な要素を抱え、寂しい思いもしました。しかし、それらを乗り越えてこの一年間で得たものは非常に大き

フラダンスの発表会で
(写真左が真鍋さん)

べきだ」という趣旨のお話でした。暗い話題が多い日本経済ですが、実際は環境技術など世界でもトップクラスの技術力を持つ企業が多く、再び世界経済の中で存在感を高めていくであろう、というお話は、私の職業選択の方向性にも影響を与えました。

く、かけがえのない出会いはもちろん、状況を打破するための行動力、新しい環境への適応能力、そして文化や言葉の違いを乗り越えるコミュニケーション能力が身についたと感じています。

私は2年次夏のイギリス・ヨーク大学への短期留学を含め、合計4つのキャンパス（京田辺・今出川・早稲田・ヨーク）を経験するという少し変わった大学生活を送ることにしました。このようにさまざまな経験ができる土壌が同志社大学にはあります。このようなチャンスをくださった先生方や大学関係者、そして私の挑戦を応援してくれた家族には本当に感謝しています。

『人生は出会いの連続だ』2年次に受講したプロジェクト科目の恩師の言葉です。いろいろな人に出会い、視野を広げていくことで、人は成長



ゼミ合宿で教授と

はないかと思えます。これから社会に出て、仕事を通して一つ一つの出会いを大切にし、今しかできないことに精一杯取り組みたいと思います。

【商学部商学科4年次生】
真鍋 明子さん

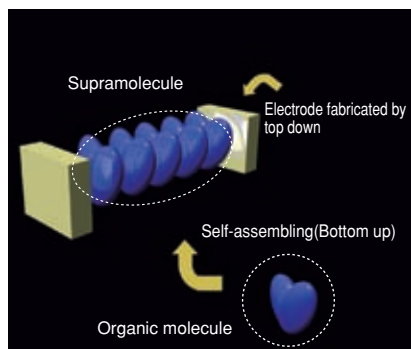
（2008年度 早稲田大学へ国内留学）

次世代の科学技術を担う ナノサイエンスの研究推進拠点

ナノサイエンス研究センター

2008年4月、従来の工学部を改組し、情報・電気・機械・化学・環境・数学の6系10学科に再編、工学と理学を融合した新生・理工学部が誕生した。この改組再編に伴い、化学、生物学、材料化学、物理学などの研究者が連携し、「生命」「材料」「現象」の3方向からのアプローチによって、学際的領域であるナノサイエンスの研究を進める拠点として開設されたのが「ナノサイエンス研究センター」だ。文部科学省による2008年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に「先端的分子生命化学の研究拠点形成」として選定された同研究センターの活動について、理工学部教授の水谷義センター長に伺った。

▼ ボトムアップ方式によるナノサイズの分子トランジスタ



▲ 低温でタンパク質を分離する装置

ナノサイエンス研究センターは理工学部の化学系の教員が中心になり、電気系、機械系の先生方にも加わっていただいで設立されたものです。2008年度に従来の工学部から理工学部へ改組再編が行われ、その際に「機能分子工学科」も「機能分子・生命化学科」という学科名に変わりました。アメリカの大学などでは「ケミストリー・アンド・バイオケミストリー」というような学科が多いことにも鑑み、生命というものを一つのキーワードにして新しく採り入れていくという主旨です。理工学部の改組再編の背景には、「理」を付記してサイエンスの要素を加えるという狙いもあります。さらに化学系の立場としては、新たに生命化学の

分野へ広げていこうという考えがあり、当研究センターを開設することになりました。

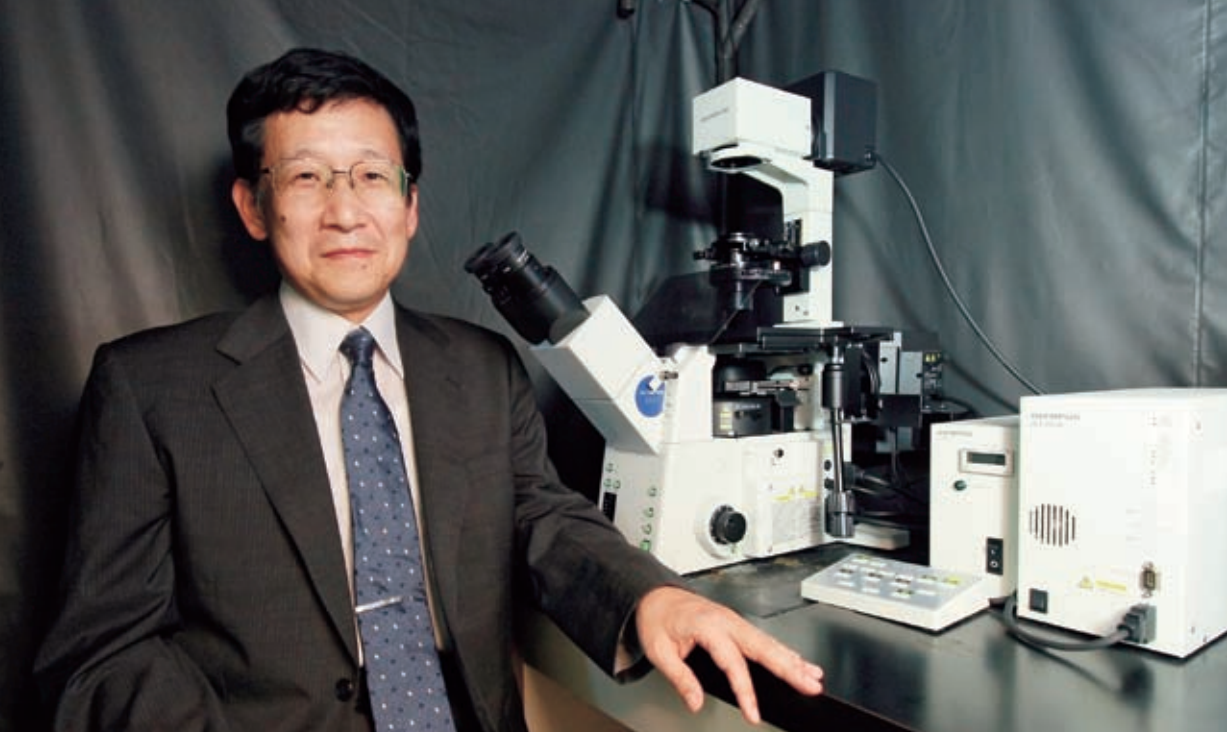
もともとナノサイエンスというのは、ナノメートルという非常に小さい、人間の目では見えない単位のもので研究するのですが、例えば高分子などがその対象になります。もちろんそれは目に見えるものよりはずっと小さいのですが、化学の分野でよく扱う分子よりは大きく、いわば中間的な存在です。ご存じの通り、分子の研究は多様な広がりを見せており、大きなものはそれを使っているいろいろな材料を作っていく研究が行われていますが、中間的な分野の研究はやや遅れています。対象が大きなものから小さなものへ進んでいくのはトップダウン式と言い、機械系や物理系ではその方向で研究が行われています。一方で、化学に長く携わっている者にとっては、まず分子のような小さなものがあり、それを積み重ねていくボトムアップ方式での作り出ししていくという方向になります。化学的な考え方で言うと、どういうふうにすれば分子を大きくできるのか、そうしたボトムアップの方法が未だよくわかっていない。トップダウンとボトムアップの狭間にあり、機械系・物理系からも化学系からも未開拓で研究が進んでいない領域こそがナノサイエンスの分野なのです。では、このナノサイエンスの研究によってどのような成果物が生み出されるのか。例えば、電子部品をより小さくすることが可能になります。集積回路の単位面積当りに入っているICの数が増えるということはいつまり、コン

ピュータをより小型化することも可能になるということです。

水谷 義【理工学部教授】



研究センターの具体的な活動は、大きく3つのグループに分かれて展開しています。それぞれの活動内容を説明しますと、まず「ナノバイオ研究グループ」。ナノとバイオがどう関係してくるかということなのですが、細胞、タンパク質、DNAといったものは、サイズ的には分子よりも大きくマクロのものよりは小さい、すなわちナノの領域にあつて、しかもそれぞれが自身のプログラムで機能しています。細胞は自分どのタイミングで死んでいくかなどが自らのプログラムに組み込まれており、外から命令されるわけではなく、自律的に機能しているのです。そういった機能を発現するには、分子のような小さいものでは単純すぎて不可能で、ナノサイズのものが必要で、その部分が化学や材料の分野にとつて最先端の研究領域になるので、「バイオ」というキーワードを付けています。細胞の機



能そのものを研究するのは本来生物分野の研究者で、材料系の研究者にとっては未知の領域ですが、人工的に細胞を作り出す技術に一步でも近づくために、ナノサイエンスの方向からアプローチをしているのです。私たちは分子から順番に組み上げて最

最終的に細胞の形を作りたいと考えていますので、その道のりはかなり長く、到達するのは大変だと思いますが、足がかりとしてナノメートルスケールのもを作り、その機能をどういう原理が支配しているのかがわかってくれば、その先に必ず見えてくると考えています。

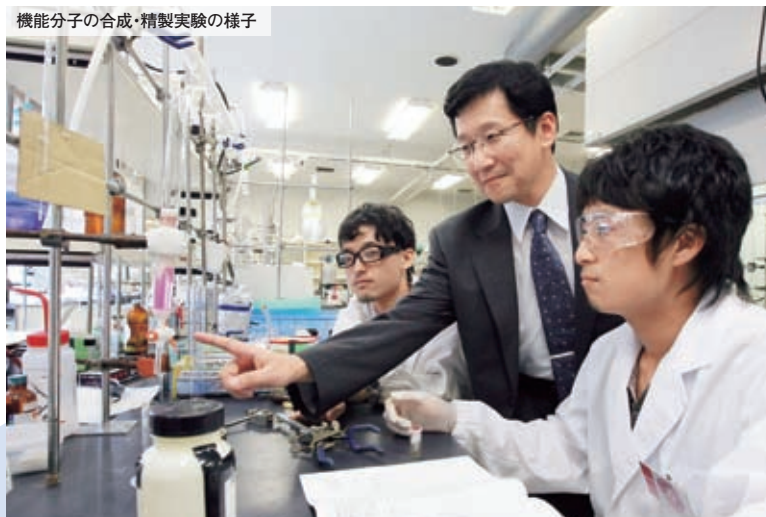
次に「ナノマテリアル研究グループ」ですが、こちらはどちらかというとトップダウン的に、物理的に大きなものをどんどん小さくしていこうという方向でアプローチしています。すでに存在する材料を小さくしていけばどうなるか、大小双方からのアプローチがどこかでドッキングするところがあるはずですので、そのポイントを探る研究を行っているグループです。ここでも、トランジスタなどの電子材料が対象になります。

3つ目の「ナノダイナミックス研究グループ」は、ナノサイズの世界において、物理的にどのような新しい現象が現れてくるかを調べています。例えば、空気は人間にとって抵抗のないものですが、蜂くらの小さな生き物にとっては羽根を振動させる運動に対して抵抗を及ぼすものになります。サイズが小さくなるにつれ、空気のようなものでも物理的に違う粘度をもつて感じられるようになる。小さな粒子のものは溶媒と触れあうことによつてランダムに運動するのですが、人間くらのサイズになるとそんなことは起こりません。そういうふうにサイズがとて小小さくなつてくると、私たちの日常的な感覚とは異なる現象が起きてくる。そうしたある意味で理学的な

研究を行っているのが「ナノダイナミックス研究グループ」です。

これら3グループのうち、「ナノバイオ」がいわばナノサイエンスが目指す完成品です。DNAは必要なときだけ情報を取り出せ、非常にコンパクトなメモリーとして機能しています。コンピュータのメモリーを一步でも

機能分子の合成・精製実験の様子



10ナノメートルスケールの分子を使ったトランジスタです。今存在するものでは1000ナノメートルを切る程度が最小ですが、私たちはボトムアップ方式で小さいところからスタートして10ナノメートルまでできました。また、当研究センターでは今後、外部の研究機関との共同研究を進めていかなく

そのレベルにまで近づけたいと考えて研究しているわけで、「ナノバイオ」が当研究センターの核であると言つていい。「ナノマテリアル」と「ナノダイナミックス」は、それを支援する形になります。スタートから1年半、現在は基盤形成的な段階ですが、徐々に成果として見えてきたものもあります。ひとつは

はならないと考えています。というのは、私たち化学系の研究者はものを作り出すことはできますが、それを客観的に評価するのはなかなか難しい。ある研究の例をあげると、エイズウイルスに効果を発揮する薬を作り出そうというプロジェクトがあるのですが、それを評価するとなるとやはり医学系機関との共同研究が必要になってきます。トランジスタに関しても、実際にデバイスの形に作りあげていくとなると、外部の研究機関の力を借りなければなりません。他大学や一般企業、医療機関など、大学の周りにあるさまざまな協力機関と連携を取りながら、実際に社会に役立つものを作っていく。それをこの5年間という期間の中で取り組んでいきます。仮に目に見える成果として実現することができなかったとしても、協力機関とのつながりがあれば、さらに継続して研究を進めていくことも可能になります。これからは大学と企業など個別の機関が共通の認識を持つて研究していくことが、より重要になってくると考えています。

2008年度

大学決算について

財務部 経理課

2008年度大学決算は、2009年5月7日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月23日開催の法人理事会で承認されました。

2008年度は、京田辺キャンパスに生命医科学部およびスポーツ健康科学部を開設し、「身体・生命、先端技術、情報を中心とする統合的・先端的最高水準の教育研究拠点」としての機能を有するキャンパスへの大きな飛躍を遂げました。教育研究条件の整備充実として、全学的に教育支援に関する業務を統括するための「教育支援機構」や安全な教育研究環境の整備と大学を取り巻く周辺環境の保全を全学的に推進するための「環境保全・実験実習支援センター」を設置しました。また、文部科学省が実施する「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」では、「質の高い大学教育推進プログラム」「大学院教育改革支援プログラム」などのプログラムで複数の取り組みが採択されました。さらに、国際化拠点形成のための基盤整備として、文部科学省の「大学教育の国際化加速プログラム」実施、AKP同志社留学生センター、チュービンゲン大学同志社日本語センター、スタンフォード技術革新センターに続く4番目の海外の大学機関としての「シェフィールド大学同志社センター」の設置、「世界学生環境サミット in 京都」の開催、ホームページ英語サイトの全面リニューアルなどに取り組みました。将来構想としては、今出川キャンパスでの文系学部の一貫教育体制の実現に引き続き取り組むほか、「グローバル・スタディーズ研究科」や「スポーツ健康科学研究科」の開設準備、さらには木津川市への「同志社国際学院(初等部・国際部)」の設置構想を進めました。

建設事業では、アモスト館を国際交流施設として全面改修し、海外からの研究者の滞在やレセプションへの活用が可能となったほか、教室、学生福利厚生施設、留学生宿舍および外国人研究者向け宿泊施設として活用するための近隣施設を取得しました。

上記のとおり、2008年度は、「良心を手腕に運用する人物の育成」という建学の精神に立脚したうえで時代の要望を的確に捉えた、様々な教育改革施策に必要な投資を積極的に行いました。世界的な金融危機により時価が著しく下落した運用資産の評価換えを行ったことや近隣施設の取得など、予算外の要因が重なり支出が先行することとなりましたが、収入面では、着実に入学者数や入試志願者数を確保したことに加え、寄付金や補助金、事業収入など外部資金の獲得への継続的な取り組みにより増収となっています。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は281億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は76%と大きな比重を占めています。

手数料は18億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は5億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、機器備品や図書などの現物寄付金を受入れました。

補助金は37億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助15億円、特別補助17億円を受入れています。その他の国庫補助金では、施設設備対象の補助金として研究装置、研究設備、アモスト館改修の耐震補強工事などの採択を受け、さらに教育G.Pなどの大学教育改革プログラムを実施するための大学改革推進等補助金などを受入れました。

資産運用収入は9億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は6億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、補助活動収入および付属事業収入が主なものです。

雑収入は8億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は3億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

当期固定資産除却額は10億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

借入金等収入は5億円で、私学事業団からの借入金です。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は11億円で、近隣施設の取得資金としての教学施設整備資金の取崩額および研究装置の取得資金としての研究装置設備等整備資金の取崩額です。

特定支出準備金取崩額は2億円で、使途が特定された準備金の取崩額です。

収入の部合計は397億円となり、手数料、寄付金、事業収入などの増収および第2号基本金取崩額の増加などにより予算に対して31億円の増加となりました。

支出の部

人件費は183億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は50%となりました。教員充実計画による教員増員などにより、前年度に比べて1%増加しました。

教育研究経費は130億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は14億円で、大学の維持管理に要した経費です。

資産処分差額は27億円で、学校法人に係る会計処理として、時価が著しく下落した運用資産(債券)の評価換えを行ったことによるものです。

繰入金は10億円で、中高統合事業特別会計への繰入額が主なものです。

施設関係支出は33億円で、キャンパス近隣の施設取得、アモスト館改修、知真館2・3号館外壁改修などによる支出です。

設備関係支出は15億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

借入金等返済支出は8億円で、償還計画に基づく計画分のほか、一部繰上償還を行いました。

前期末未払金は1億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

第2号基本金組入額は、組入計画に基づき、教学施設整備資金14億円、情報基盤整備資金1億円の合計15億円を

組み入れました。

第3号基本金組入額は、寄付金および過年度から保有している準備金の一部を基金に組み入れました。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組み入れました。

特定支出準備金繰入額は10億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は451億円で、予算に対して51億円の増加となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度消費収支差額**は54億円の支出超過となり、近隣施設の取得や運用債券の評価換えなどにより、予算に対して21億円支出が増加しました。なお、累積消費収支差額としては**275億円**の支出超過額を翌年度以降に繰り越すこととなります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して3億円減少し、当年度末では**13億円**となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は254億円でしたが、当年度末は34億円増加して**288億円**となりました。

(本文中の金額については1億円未満を調整しています)

■収支計算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	28,107,460	28,093,010	14,450
手数料	1,560,100	1,784,654	△ 224,554
寄付金	336,720	547,165	△ 210,445
補助金	3,311,750	3,686,799	△ 375,049
資産運用収入	616,920	942,022	△ 325,102
資産売却差額	0	2,446	△ 2,446
事業収入	499,800	599,793	△ 99,993
雑収入	847,130	833,234	13,896
繰出金	251,370	267,444	△ 16,074
分担金	131,320	131,320	0
(帰属収入合計)	(35,662,570)	(36,887,887)	(△ 1,225,317)
当期固定資産除却額	847,830	980,641	△ 132,811
借入金等収入	0	525,000	△ 525,000
当期末未払金	0	69,220	△ 69,220
第2号基本金取崩額	60,000	1,061,695	△ 1,001,695
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(907,830)	(2,636,556)	(△ 1,728,726)
特定支出準備金取崩額	59,140	188,435	△ 129,295
[収入の部合計]	[36,629,540]	[39,712,878]	[△ 3,083,338]

用語解説

● 収 支 計 算 書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが「収支計算書」です。

● 基 本 金 ●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産除却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	18,397,060	18,270,103	126,957
教育研究経費	13,508,170	12,963,016	545,154
消耗品費他	9,846,400	9,332,605	513,795
減価償却額	3,661,770	3,630,441	31,359
管理経費	1,467,000	1,454,395	12,605
消耗品費他	1,362,820	1,319,253	43,567
減価償却額	104,180	135,142	△ 30,962
借入金等利息	50,030	50,033	△ 3
資産処分差額	250	2,689,135	△ 2,688,885
徴収不能引当金繰入額	40,730	39,520	1,210
徴収不能額	0	10,672	△ 10,672
繰入金	1,301,770	1,020,101	281,669
予備費	105,000	—	105,000
(消費支出合計)	(34,870,010)	(36,496,975)	(△ 1,626,965)
施設関係支出	616,100	3,340,761	△ 2,724,661
設備関係支出	1,992,490	1,528,440	464,050
当期固定資産受贈額	0	128,400	△ 128,400
借入金等返済支出	295,850	806,930	△ 511,080
前期末未払金	87,670	87,670	0
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0
第3号基本金組入額	11,000	31,000	△ 20,000
第4号基本金組入額	126,300	126,300	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(4,629,410)	(7,549,501)	(△ 2,920,091)
特定支出準備金繰入額	416,750	1,017,306	△ 600,556
[支出の部合計]	[39,916,170]	[45,063,782]	[△ 5,147,612]

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
(当年度消費収支差額)	(△ 3,286,630)	(△ 5,350,904)	(—)
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	3,049,590	1,708,913	—
[繰入取崩後当年度消費収支差額]	[△ 237,040]	[△ 3,641,991]	[—]
[前年度繰越消費収支差額]	[△ 23,825,200]	[△ 23,825,200]	[—]
[翌年度繰越消費収支差額]	[△ 24,062,240]	[△ 27,467,191]	[—]

借入金			
科目	予算	決算	差異
[前年度末借入金残高]	[△ 1,600,280]	[△ 1,600,280]	[—]
当年度借入額	0	△ 525,000	—
当年度返済額	295,850	806,930	—
[当年度末借入金残高]	[△ 1,304,430]	[△ 1,318,350]	[—]

■収支構成図

